

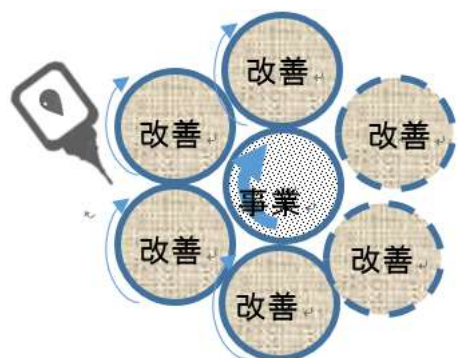
VOL.11 の内容

1. 職員提案制度について
2. カイゼンリレー：スポーツ振興課（流山ロードレース）

政策体系と改善（カイゼン）の関係

流山市の現在の総合計画は、**6つの政策と、36の施策**、そこに位置づけられた**事務事業**で構成されており、それぞれが歯車のように噛み合っており、市が目指す姿（都心から一番近い森のまち）の実現に向かっていきます。

改善（カイゼン）は、この目指す姿の実現に向かって、事務事業の歯車をスムーズに回すための潤滑油のような役割を果たします。



1. 締め切り迫る！ 職員提案の提出は 11月末までに！



（1）職員提案制度とは？

流山市では、①自らの課題を発掘し解決していく職員を育成し、②職員の意識高揚や事務事業の効率化、更には、③市民サービスの向上に寄与することを目的とした、「職員提案制度」があります。

提案の対象：「事務効率の向上」、「経費の節減」、「市民サービスの向上」に繋がる提案。

提案者：個人でもグループでもどなたでも提案できます。

提案期間：いつでも受付しています。ただし、職員提案審査会を開催する都合上、**11月末を受付年度の区切り**とします。（それ以降に受付したものは次年度の審査対象となります。）

（2）具体的にどんな提案ができるの？

これまでに採用された主な職員提案は以下のものです。

- 差し押さえ品のオークションへの出展（H20～）
- 賃金や報酬の払込書を手書きから電子化へ（H21～）
- 外国人対応マニュアル作成（H27。プロジェクトチームで作成。H29 改定の提案も採用）
- 認知症にやさしい窓口充実のための研修導入（H26～）
- 統合型GISの導入（H27からプロジェクトチームにより研究し、導入に至った。）
- 「異動ガイドブック」の作成と配布（H28 自主研究からの成果物）

⇒次ページでは、具体的な提案方法について触れます

(3) 職員提案ってどうやって提出するの？

2通りの方法で提出できます（いずれもOK）

様式に記入してメールで提出

グループウェアの、電子書庫>便利BOX>共通情報>改善（カイゼン）・職員提案制度>にある「職員提案用紙」に記入して、

関連データとともに情報政策・改革改善課仕事カイゼン係の職員までメールで送付してください。

グループウェアのアンケートの利用(New!)

アンケートシステムを利用して提案を提出できるようになっています。グループウェアの「アンケート&職員提案」から、選択・記入してください。

4. カイゼンリレー（第6回）：スポーツ振興課

各課におけるカイゼンの取組みを紹介する連載「カイゼンリレー」。今回はスポーツ振興課からの、**流山ロードレースにおけるカイゼン報告**です。



流山ロードレースは、10km ロードレースで4,000人、2km ファンランで300人によって開催される市内最大のスポーツイベントです。また、大会運営に関わる方々は1,000人を超え、あわせて5,000人を超える人で賑わいます。

(1) 参加者の減少に対する取組みと成果

2007年に誕生した東京マラソンを契機に「ランニングブーム」が到来し、ランニングをするというライフスタイルが定着したため、大都市で行われるランニングイベントはもちろん、地域活性化のひとつとしてご当地マラソンも増加し、競争が起こっている一方、前例踏襲による周知の仕方により、参加者が減少していました。

具体的な取組み

- これまで行ってきた市広報、公共施設へのポスター、チラシの配架に加え、多くの人が集う、**見るツール**の有効活用、具体的には、**市内各駅のデジタルサイネージ**（流山おおたかの森駅、南流山駅、運河駅）及び**SNS**（Twitter、Facebook、大会公式HPの開設）を活用しました。



- 特に大会会場で楽しめる**インフォメーション**（飲食・物販出店、市内中学校によるファンファーレ、記念写真撮影スポット、協賛キャラクター紹介、ボランティア情報等）の**発信**を行い、大会に関わる全ての方への満足度向上を図りました。
- 大会会場へのアクセスをよりよくし、かつ、**流山市のみどりあふれる発展**を感じ

られる市街地を中心としたコース設定を行い、大会の魅力度向上を図りました。

取組みによる成果

- 参加者が**過去最高**に（前年比で200人増！！）
- SNS（Twitter、Facebook、instagram等）にはハッシュタグ#流山ロードレースなどの投稿が多くみられ、**大会情報が様々なツールで露出増、大会ブランド力が向上**しました。



(2) 新たな課題への取組みと成果

- 近年の異常気象による気温の上昇及び給水所の不足
- 市街地を中心としたコース設定による走路・迂回路誘導員ボランティアの不足
- 参加者数増による大会会場の混雑

具体的な取組み

- **給水所**を2カ所から**3カ所**にしました（10kmロードレースとしては**異例**です）。また、企業協賛による**エイドステーション**（生活クラブ生協おおたかの森デポ）の設置を依頼しました。そして、ゴール地点に**ミストシャワーの設置**、当日受付にて**熱中症注意を促すチラシ掲出**及び大会本部での**アナウンス**により周知しました。
- **流山市スポーツボランティア制度を創設**し、公募によりボランティアを募るとともに、スポーツボランティア講習会を開催しました。
- 協賛企業へは金銭的協賛だけではなく、**人的協力**の依頼もあわせて行いました。
- キッコーマンアリーナ内に設置していた**手荷物預かり所を屋外に設置**し、利用しやすくしました。（右上に写真あり）

手荷物預かり所の様子



取組みによる成果

- 当日は、この時期としては大変な猛暑に見舞われ、救急搬送もありましたが、**重症者を出すことなく**大会を終えることができました。
- 個人ボランティアとして34名、団体として6団体102名、**合計136名**（10月30日現在）の**ボランティアを確保**でき、市街地コース設定による走路・迂回路**誘導員不足を解消**できました。加えて、多くの**協賛ボランティア**（主な協賛ボランティア、ダイワハウス工業株式会社柏支社**70名**など）のご協力により、屋外に設置された手荷物預かり所の運営をサポート頂きました。
- これにより、走路誘導・応援はもちろんのこと、受付、更衣室、手荷物預かり所の動線がスムーズになり、ランネット（ランニングイベント総合サイト）では「**多くのボランティアによる温かい応援が胸に響いた**」「**会場運営がスムーズになりとてもよかった**」などの口コミを多数頂きました。（なお、参加した庁内職員からも好評です。）

さらなる成果

流山市スポーツボランティアは流山ロードレース大会での活用にとどまらず、世界バレー2018に向け、9月に行われたオランダ女子バレーボール代表チームの事前合宿でも活動するなど、効率的、効果的な業務遂行を図ることにつながりました。